

第5回 東近江市市民協働推進委員会 オリエンテーション資料



平成24年11月15日

資料内容について

WSにおいて、委員の皆様との共同作業を円滑に進めるため、下記の内容をもとにお話しします。

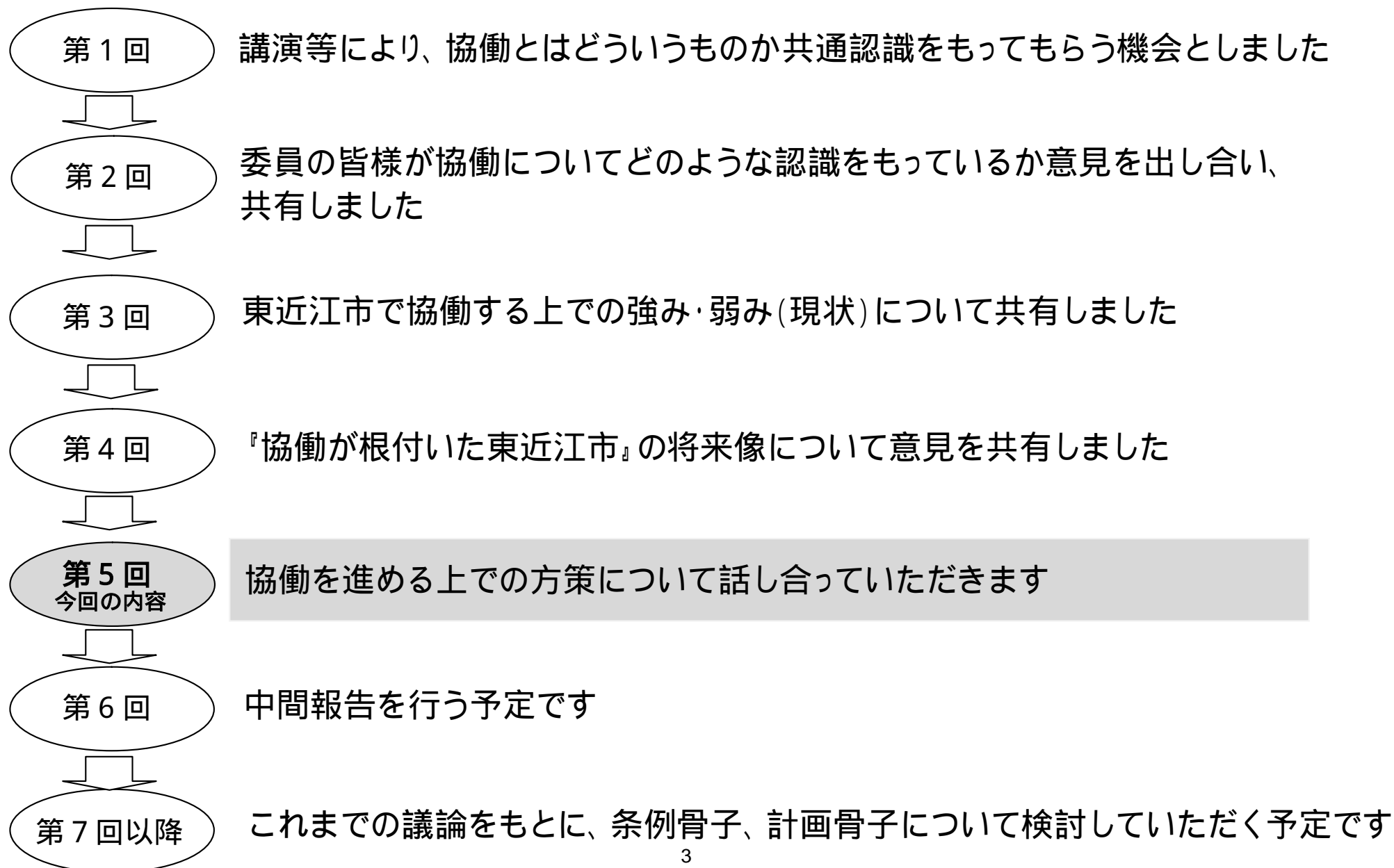
ポイント

- 1 . 現在までの委員会の流れと本日の検討内容
- 2 . 前回の意見のふりかえり
- 3 . 現状と課題まとめ

1 . 現在までの委員会の流れと

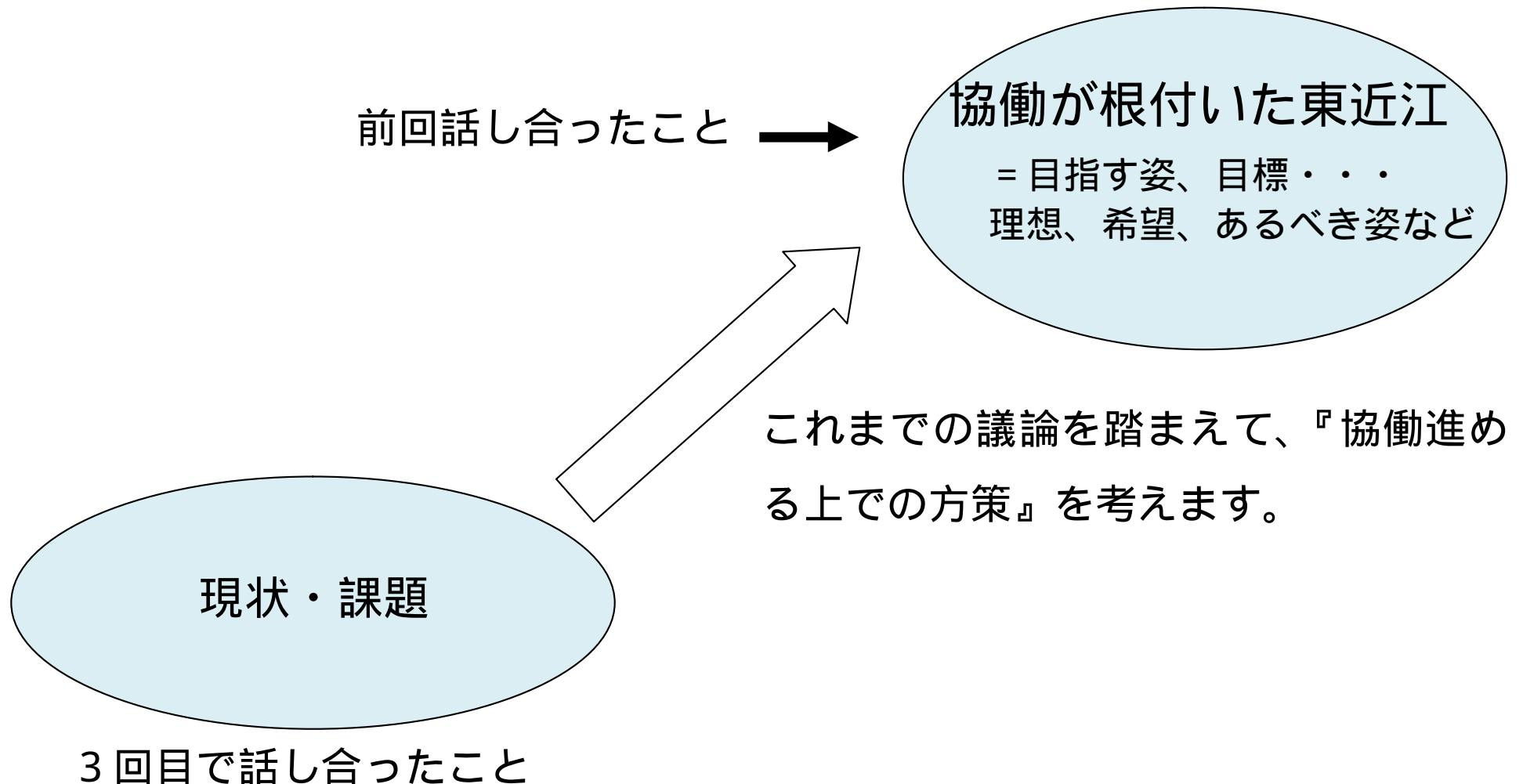
本日の検討内容

1-1 委員会、ワークショップの流れについて



1-2 WSの流れについての再整理

前回、『協働が根付いた東近江市』の将来像を考えていただき、目標を明確にさせていただきました。
今回は、これまでの議論を踏まえて、協働を進める上での方策を考えます。



2 - 1 前回意見

Aグループ

テーマ：将来イメージ

キャッチコピー

もちつもたれつ お互いさま！！

住民同士の共通認識ができている

行政と住民との認識

行政との信頼関係ができている

市民の声が生かされたまちづくり
(ボトムアップ)

職員さん同士の連携をもっと上げれば事業がしやすい

市民の声が生かされている

免許返上後の交通手段

交通手段など共に助け合っている

共に助け合っている

各種団体の職員ではなく、自主的に参加してほしい

イベント・お祭りなど、サポートを行政がしている

子育て講演会などに多くの若いお母さん方が参加していたらいいな...

イベント・祭りなど楽しい活力のある町

イベント・行事に主体的に参画している

隣近所の人を見守りができる範囲で市民同士のできる地域になっている

災害時に備えた個人情報の提供

一人暮らしになっても、自分の家で安心して生活できる

後見人制度が普及している

お互いに安心している

主体的に市民が健康づくりに取り組んでいる

健康に不安のない町
(病院・健康増進活動など)
在宅介護

介護予防のための事業は、市民が自ら計画し実施できるようになっている

市民が一緒に健康づくりに取り組んでいる

気軽に立ち寄って、井戸端会議ができるコミセンの場(居場所)

コミセンの整備や空き家の整備など集う場気軽に集える????よい

自然(森や川など)いっぱい散歩路

行政が市民の事業に支援している

地域の人々がすぐに助けくれる

行政が継続的に支援してほしい

Cグループ

キャッチコピー

イメージ

それぞれの色を織り成す町
東近江

虹色に輝く東近江

森 虹 光合成 葉脈 つながり ボーダレス

対等

意識を高めるWS

意見が言える

気づき

自ら動く

自主・自立

自分を持つ

役割を持つ

生きがいを持つ

どの年代も生き生きしている

誇りに思う

自分のまちが好き

評価される

相互理解

まちづくりに対し、行政職員が理解し、参画されている

行政の役員や企画に民間の人材がもっと入る

個人として認められる社会

垣根をとる

民間事業所のCORとの市民協働の結びつきができています

いろいろな団体が互いに活動を知っている

民間の企業も非常に地域のことを考えてくれている

市からハチャメチャな提案がもってあってもいい

市の一体感がある

活発な活動

交流の場機会がたくさんある

ボランティア・NPOが活発になっている

活動グループの交流がさかん

病気や障害等のハンディを持った人が、主体的に協働に参加できる

気軽に使える公共の場

高齢者が協働の輪の中で働く時間がある

地域社会に対して、関心を持っている人が多い社会

情報公開

情報発信 ← → 受信

市民同士で意見が集約できる社会

協働のニーズとニーズがよく分かっている

空き家情報

子育てするのに心が疲れないから引っ越したくない

個々を活かした集合体

心が豊かな

夢がある

『協働が根付いた東近江市』

Aグループの意見として

『もちつ、もたれつ、おたがいさま』

【高齢になっても安心して暮らせるまち】

- ・困ったときに共に助け合えるまち（気軽に車に乗せてもらえるような関係）
- ・将来ひとり暮らしになっても安心して暮らせるまち
- ・災害にあっても隣近所が声をかけてくれて、お互いが安心して暮らせるまち
- ・市民も一緒になって健康づくりに取り組んでいけるようなまち

【市民が主体的に参画できるようなまち】

- ・まちづくりの一環として市民が自ら遊歩道の整備をしたり、井戸端会議のように気軽に集まれる場所
- ・行政の継続した支援がある

【連携できているまち】

- ・市民の声が生かされており、行政の職員の相互の縦割りでなく、仕事上での連携がうまくとれているまち

Bグループの意見として

『今日どう?』と言える共汗できるまち 人・物・情報を活かした誇りあるまちづくり

【東近江市として一体となった誇りがある】

- ・協働が根付いた東近江市のイメージを話し合う中で、いったい東近江市ってどういうまちかと考えたところ、一言でいうとビジョンやイメージがあまり見つからないことに気づいた。そのため、「協働」を進めていく上で、東近江市民としての誇りや、礎、根底になるものがベースとしてほしい。

【若者も市民としての市職員も色々な市民がまちづくりに関心をもって活動する姿】

- ・ほしい情報がすぐに分かる
- ・情報が集まる市民センターのような拠点がある

【さまざまな仕組みづくりができています】

- ・市民と職員が話し合える場づくり
- ・市民の発想が行政の施策に取り入れられる手段
- ・大人気の市民交流活動サイトがある

【行政が全てお金を出すのではなく、自分でまちづくりに投資できるような姿】

- ・コミュニティビジネスが多く育っている

【地縁団体・地域の団体の理想の姿】

- ・「お互い様、おかげさま」で声を掛け合って、自分達に出来ることは、自分達です

Cグループの意見として

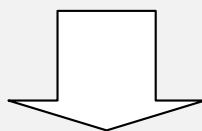
『それぞれの色をおりなすまち 東近江』

【相互の理解が深まり、個人として認められ、民間企業等についても地域のことが考えられているまち】

- ・ボランティア、NPOの活動が活発であり、各グループの交流が盛んで、気軽に使える公共の場がある。

【みんなが個人として相互の理解をしていけるような社会】

- ・市からの色々な提案があり、市民、市職員、色々な人材が入り混じっていて一体感がある。
- ・情報発信・情報公開ができており、市民が情報の受信をするための場や市民の意見が集約できる場所がある。
- ・市民が対等であることの意識を高め、ワークショップや市民が意見を述べる場がある。



【目指すものとして】

- ・市民が個々の意識を高め、市民全員が個々に、幸せで、心豊かに、夢のある生き方ができるように、個々を活かした集合体になれるような東近江市を目指したい。

2 - 3 先生の総括として（議論の方向性として）

- ・キャッチフレーズとして、「森、水、虹、光合成、葉脈」などが出てきていたが、人々が生活している中で出てきた意見であり、行政だけの議論では出てこない面なので面白く感じた。
- ・若い人をどう巻き込むか、すそのをどのように広げるかも共通する課題だと思う。若い人たちも地域について興味をもっているが、地元でつながっていないところにヒントもあると思った。
- ・ビジョンやイメージが東近江市では見つからないという意見があったが、実際には行政では総合計画等でビジョンは掲げている。市民と行政がビジョンを共有できていない部分があるので、行政が市民と一緒に作りあげていくプロセスが重要だと議論から感じた。また、行政と市民がともに作り上げていく過程で、誇りやオーナーシップといったキーワードが出てくるとも思った。
- ・情報の交差点があればという意見は全体として出ていたが、情報の発信や共有することと同時に、何か課題の共有みたいな意味合いがあるのではと感じた。単なる情報の共有ではなく、市の中で困っている人や、問題のある人がいるならば、その問題や課題を共有できるような場があって、そこに色々な人が集まって、情報が繋ぎ合わされて解決していくようなものがまちには必要だと思う。
- ・「投資」というキーワードが出ていたが、大事なキーワードであり、自分達のまちを良くしていこうという投資のあり方や仕組み、どうすれば東近江市で回せるのかを考えてみるのも良いと思う。
- ・「市から、はちゃめちな言葉が出る」という意見があったが、役所は失敗が許されない暗黙の了解があることから、もっと失敗を恐れずトライできる環境をどうつくるか、市役所のポテンシャルをどう引き出すかは「協働」の非常に大事なところであるし、市民の大事な役割ともいえると思う。

3 . 現状と課題まとめ

3-1 全体の意見まとめとして（強み・弱み）

	行政	市民
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・人材が豊富にそろっている ・専門性が高い ・多くの情報をもっている ・ネットワークをもっている ・権限がある（財源等） ・指定管理がうまくいっている ・地域コミュニティの構築をうまく進めつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ・古くから地縁が強い ・地域愛、郷土愛が豊かである ・地域事情に精通 ・まち協の活動が活発 ・自由に発言・行動ができる ・さまざまな能力をもった住民がいる ・NPO活動が盛ん ・新住民が多い
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体・部署間との連携ができていない ・市からの施策事業が市民に伝わりにくい ・相談体制が不十分（どこに相談したらよいか分からない） ・協働についての認識不足 ・予算が少ない ・失敗ができないので保守的な取り組みが多い ・役割分担が明確にできていない ・市民団体が進めている事業などのへの協力不足 ・情報の発信や情報提供が十分でない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の意識が低下している（行政に頼っていることが多い） ・担い手不足、担い手の高齢化、若者などのリーダー不在 ・コミュニケーションツール不足 ・コミュニティの弱体化 ・集落高齢化 ・参画する方法が分からない ・各団体・各機関の連携不足 ・活動資金不足 ・各種団体が自立していない ・新興住宅地において、地域に関しての世代間のギャップがある



- ・強みを伸ばすとともに、弱みを克服していくことが重要。しかし、意見の中には、行政と市民で分けにくい部分や、強み・弱みが表裏一体となっている意見が出ていた。

3 - 2 課題設定のための整理

全体の課題として（市民・行政分けられない課題）

- 1．意識面 「協働の必要性が理解されていない（職員・市民）」という意見があることから、行政・市民側ともに、協働する上での意識が足りていない。
- 2．連携不足 「行政と市民団体の連携不足」という意見があることから、庁内、市民と行政間、市民同士での連携が取れていない。
- 3．資金面 「各種団体に対し、財政的支援が大きい」「活動資金不足」という意見があることから、協働で行うことに対してお金をどう回すかの工夫が必要。

個々の課題（強みでもあるが弱みでもある）

- 1．コミュニティ
 - ・新しい住民はさまざまな人がおり、今後の力になり得る。新しい住民はつながりが薄いし、自治会加入率、イベントへの参加率が低い
 - ・地縁が強く、まとまりがある コミュニティは高齢化・希薄化による弱体化が進んでいる
 - ・さまざまな住民がいる コミュニティ活動への担い手不足
- 2．情報・ネットワーク
 - ・行政は情報収集力が高いし、たくさんの情報をもっている 住民としては情報不足に感じている、意思疎通ができていない
 - ・行政はさまざまな主体と連携できるネットワークをもっている 庁内・市民との連携不足がある（相談にいてもたらい回しにされる）
- 3．市民や市民活動等への支援
 - ・行政による色々なサービスを行っている 個別のサービスに対応しきれない現実がある
 - ・専門性の高い職員・元気な職員がおり、さまざまな支援を行っている 行政と市民の交流不足、市民活動への協力不足等感じている

3-3 市民団体が感じている行政・住民との協働に関する現状と課題

1．情報

- ・情報公開等の透明性が必要
- ・補助金に対しての取捨選択した情報がほしい

2．意識

- ・市民・行政ともに熱意が必要
- ・決定権をもつ議員にも協働に関する意識づけが必要
- ・課長・部長クラスは訪問しない
- ・意識をもっていない人にもってもらうのは難しい
- ・対等の立場でない

3．評価

- ・委託以上のことをやっているのに評価されない
- ・協働は評価が数字で表しにくい

4．連携

- ・委託の際であれば、具体的な事業内容の話合い等はない
- ・コミセンとして「まち協」が公民館を運営することになって行政との距離が遠くなった
- ・他都市とも連携して何かつながりを持ちたい

5．お金

- ・補助金が行政の使い勝手でしか考えられていない
- ・補助金の額をあげてほしい
- ・税金の使い方を考えてほしい

6．交流・地域

- ・合併してから職員も市民と市民団体と交流する機会が少なくなった。
- ・大人の地域への働きかけが弱い
- ・地域との関わりが少なくなっている

3-4 まちづくり協議会が感じている行政・住民との協働に関する現状と課題

1．意識

- ・行政が積極的に行動する熱意がない
- ・お互いの立場を認め合うことが重要
- ・行政側に協働の意識が低く、体制が整っていない

2．連携

- ・まちづくり推進課以外の動きがわからない
- ・事業自体、まち協単独でやっているの、協力の場面がなかった
- ・行政の窓口が多いので一本化してほしい
- ・各団体と問題共有・活動の共有が必要

3．地域

- ・地域コミュニティに対する支援が弱い
- ・ローカルガバナンスの気概が感じられない
- ・自治会加入率をあげていく必要がある

4．お金

- ・交付金を検討してほしい、また配分率を見直してほしい
- ・まち協への人的資金の充実をしてほしい

5．人

- ・人材の確保に取り組んでいくべきである
- ・地域の中でのリーダーが必要

6．交流

- ・行政とお互いが腹を割って定期的に話し合える場がほしい
- ・学習する機会がない
- ・住民の子どもから大人まで多くの人に参加できる事業や場所づくりが必要

3 - 5 東近江市の全体の課題として

(WSの意見及び市民団体、まちづくり協議会へのヒアリングでの意見を受けて)

WSの意見や市民団体、まちづくり協議会のヒアリングを踏まえると、全体的な課題として、次の5つが考えられます。



- 1 情報の提供及び共有
- 2 市民力・行政力の育成(学習・啓発・研修等含む)
- 3 実施する事業への支援(財政)
- 4 拠点となる場の提供
- 5 協働を推進するためのしくみづくり(市民提案 参画)

それぞれの課題として

1 情報の提供及び共有

行政はたくさん情報をもっており、さまざまな情報提供をしているが、市民や各種団体からすると、自分に必要な情報がどれか分からないといった意見もあり、情報が共有できていないといった課題がある。

2 市民力・行政力の育成(学習・啓発・研修等含む)

市民と行政が協働していくためには、お互いに「協働」への意識を高めていく必要があるが、行政職員には、一緒に汗をかきながら事業や活動を行っていかこうとする意識があまりない。また、一方で、市民としても公的なものは行政の仕事であるという行政依存意識が強い。

さらに、市民活動を行う上では、リーダーの高齢化や役員の固定化により、後継者にうまくバトンタッチができていないといった課題がある。

3 実施する事業への支援(財政)

各種団体が活動を継続していくためには、熱意とともに資金等が必要であるが、収入源が乏しいため、事業や活動を行っていくのが困難な団体が多いとともに、行政としても予算が限られており、支援することが難しいといった課題がある。

4 拠点となる場の提供

市民が活動を行う上で、行政として交流の機会や情報の提供は行っているが、市民としては、活動に参加したいが、どこに相談してよいか分からなかないという意見やさまざまな人と交流や意見交換をしたいといった意見があり、協働を進める上での交流の場や機会が十分でないといった課題がある。

5 協働を推進するためのしくみづくり(市民提案 参画)

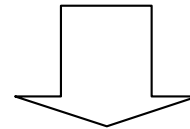
「事業自体、まち協単独でやっているなので、協力の場面がなかった」という意見があるように、行政も各種団体もそれぞれの立場のみで協働活動を実施しており、総合的かつ計画的に事業や活動が行われていない。また、行政は市政への参加機会やきっかけをつくっているが、市民としてはなかなか参加できておらず、市政に参加しやすい環境が整っていないといった課題がある。

3-6 参考として

「協働」及び「基本原則」の概念を再確認

協働とは・・・

さまざまな主体が、主体的、自発的に、共通の活動領域において、相互の立場や特性を認識・尊重しながら共通の目的を達成するために協力すること
(市民と行政の相互の関わり方を定める)



7つの基本原則にまとめられます

「自主・自立」「対等であること」「相互理解」

「目標の共有」「情報公開」「評価の機会」「役割の分担及び責任の分有」

協働の形態を再確認

プロセス	協働の形態	説明
企画・立案 (Plan)	情報交換・意見交換	住民、NPO等と行政の双方が情報交換や意見交換を行うことにより、住民ニーズや行政サービスなど地域の様々な課題について共有を図る形態
	企画立案への参画	行政が事業を企画立案する段階で、NPO等から意見や提案を受けることにより、行政の事業にNPO等の特性や専門性などの能力を活かす形態
実施 (Do)	事業協力	行政とNPO等との間で、目標と役割分担を決め、お互いのノウハウや資源を出し合い事業を行う形態
	補助	NPO等が行う公益性の高い事業に対し、行政が公益上必要であると認めた場合に、その事業を育成、助長するため、資金面で協力する形態
	事業委託	行政が担当すべき分野の事業を行政にはない優れた特性をもつ団体(NPO等)に契約をもって委ねる形態
	実行委員会	行政とNPO、場合によっては、それ以外の主体が新しい一つの組織を立ち上げ、そこが主催者となって事業を行う形態

3 - 7 今日議論することの再確認

以上のような現状と課題、前回の意見等を踏まえまして、「協働を進める上での方策」について今日は話し合ってください。

協働を進める上での方策について
皆で語り合おう！

楽しみながらワークショップを
進めていきましょう。